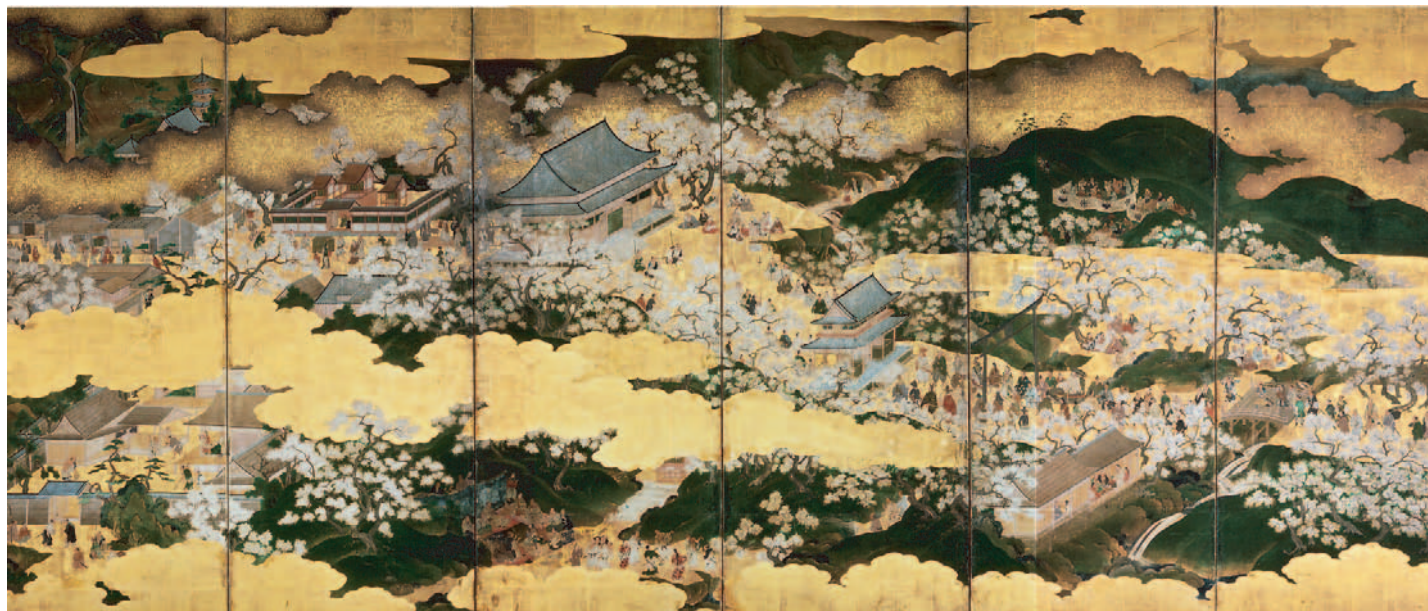


ほうしゅん
萌春の美

—重要文化財 豊公吉野花見図屏風とともに—

特別展示 雛かざり

平成21年2月13日(金)～4月19日(日) 細見美術館



© 豊公吉野花見図屏風(左隻)

重要文化財「豊公吉野花見図屏風」は文禄3(1594)年2月、豊臣秀吉主催で行われた吉野の花見を描いた作品です。本図は天下統一を成し遂げた秀吉が桃山の春を謳歌する、絢爛で記念碑的な作品として知られています。壮大なスケールで花見を描きながら、桜を楽しむ人々の表情は穏やかで、繊細な筆致も随所に見出されます。本展ではこのほか、梅、藤など春を彩る花々に因む絵画や工芸品を陳列、早春に寄せる想いを美の世界に訪ねます。あわせて毎春恒例の雛人形も多数陳列します。

主催: 細見美術館

会期: 平成21年2月13日(金)～4月19日(日)

休館日: 毎週月曜日(祝日の場合、翌火曜)

開館時間: 午前10時～午後6時

入館料: 一般1000円(800円) 学生800円(600円)

※()内は20名以上の団体料金

会場: 細見美術館 京都市左京区岡崎最勝寺町6-3

Tel / 075-752-5555

お問合せ先: 広報担当 三宅 由紀

Tel / 075-752-5555 Fax / 075-752-5955

E-mail / kouhou@emuseum.or.jp

<http://www.emuseum.or.jp>



梅枝文釘隠



桜に小禽図 酒井抱一

© 豊公吉野花見図屏風 六曲一双 紙本金地著色 江戸初期

豊臣秀吉が、文禄三年(一五九四)二月二十七日から三月一日にかけて行った、盛大な吉野の花見の様子を描く。左隻の大きな屋根の蔵王堂へと向かうこし輿に乗る人物が秀吉。大勢の家臣や見物の人々も、穏やかな表情を見せる。山の下の六田橋から山上の伽藍まで、全山が満開の山桜に埋め尽くされ、金地に白い花が霞のように連なって見える。秀吉の権勢を示すだけでなく、川で漁をする人や、茶を楽しむ姿、花見に興じて踊る人々など、当時の風俗も細やかに描き、桃山の祝祭的な空間をよく表わしている。

HOSOMI MUSEUM 六